

問四 傍線部3「アメリカやヨーロッパをよく知る人々が日本にいて感じる窮屈さ」とあるが、このような「窮屈さ」が感じられるのは、日本の社会がどのような社会だからか。本文中の言葉を使って「十字以内で答えよ。」

問五 傍線部4「虚飾に惑わされない実質の価値」を見出すために、筆者は、われわれ日本人がどうするべきだと考えているか。それが述べられている一文を本文中から抜き出し、その最初の五字を答えよ。

近代科学の客観性

第四問 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

① 望遠鏡の発明は、宇宙の世界を知るうえで、実にカッキテキな出来事だった。
② 確かに、ガリレオ以前の占星術師も、正確な距離を計測するための照準儀や、角度をただしく測るための四分儀などの計測器を利用していた。けれども、それらはあくまでも人間の視覚能力を補うための道具なのであって、観測は人間自身の能力にゆだねられていた。つまり観測は万人のものではなく、能力を授かった特殊な人の行う特別な営みだったのである。

③ しかし、望遠鏡の出現は事態を一変させてしまった。望遠鏡を天に向けたとき、特殊な能力を備えた者にも見えなかった天体の詳細な姿が、望遠鏡の機能によつて目の前に現れたのだ。天体のこの詳細な像は、肉眼では誰一人として見る事ができず、望遠鏡をノゾけば誰にでも見ることができたのだった。

④ 望遠鏡は、見る者と対象との距離を近づける効用を、等しく私たちに提供してくれた。と同時に、望遠鏡は対象から観測者を遠ざけてしまった。望遠鏡が観測者を押しのけて、観測の主役に躍り出ることになった。観測者（主体）と対象（客体）との分離を科学者が自覚したときから、科学は独自の道を歩むようになったのである。

⑤ 今世紀初頭の偉大な科学者であり科学思想家であったシュレーディンガーは、

〔出典〕
中村量空
『複雑系の意匠』

〔著者出題歴〕
・大阪府立大学
・龍谷大学

1 科学的方法を基礎づける二つの原理について論じている。すなわち「客観化の原理」と「理解可能性の原理」である。⑧

⑥ 科学的な知識に基づいたものであるにもかかわらず、得られた知識の体系から、感覚的な性質（主観）はすべて除外される。これが科学的世界像の特徴なのである。望遠鏡に始まる種々の観測装置の導入は、この「客観化の原理」を観測者に実感させる。ケイキとなった。観測装置の助けを得て科学者が手にしたのは、観察し理解したいと願う私（主体）を、観察対象から分離することによって願いをかなえるという、実に「コウミョウな方法」だった。その成果は、²占星術師の予言よりも正確で、主観を除外するという手法のゆえに、万人に共有されるはずのものであった。③

⑦ ガリレオが星界の詳細を見たその最初の感動は、宇宙の世界像の確立とともに失われてゆくのである。

⑦ イタリアの詩人ダンテは、ルネサンスがまさに花開く十四世紀初頭に、^eソウダイな詩篇『神曲』を完成させた。『神曲』の中でダンテが想像した宇宙は、およそ「客観的なもの」ではなかった。④ それは、キリスト教の教義にしたがった宗教的な宇宙である。善悪の教義にそって、ダンテの宇宙では、地獄が地底深く沈み、天国が天空高く浮かんでいる。罪深い人間が、苦悩から解放されて、神の愛に包まれたいと願うなら、恒星天のさらに高みにある至上天まで昇らなければならぬ、とダンテは考えた。

⑧ ガリレオ以降の人たちは、³宇宙の世界に聖域を見出すことができなくなりました。世界の調和は、神の業ではなく、自然界の力学的な法則の現れにすぎないと考えられるようになった。つまり力学的な法則は、必要最小限の原因によって説明されるという、ただそれだけのことである。⑤ 「仮説はつくらぬ」と宣言したニュートンにとって、天体の世界の神は不要な仮説にすぎず、万有引力の法則こそが、必要最小限の原因なのであった。

⑨ 神と聖域は、それを感得する人間と不可分である。だが観測装置が主役に躍り出て、観測者としての人間は、脇役へと後退してしまった。その結果、それまで人間が感じ取っていたさまざまな現象が、より詳細に理解できるようになり、人間の感覚はますます軽視されるようになった。

⑩ このような人間の主観の排除が、科学の進歩を促したのである。人間の幸福を目ざした科学の構築が、幸福を感じる人間の感性の排除によって実現されるというのは、実に皮肉なことだった。

（注）○ガリレオ……一六世紀から一七世紀にかけてのイタリアの天文学者・物理学者。望遠鏡による天体研究で有名。
○シュレーディンガー……オーストリアの理論物理学者。
○ダンテ……一三世紀から一四世紀にかけてのイタリアの詩人。
○ニュートン……イギリスの物理学者・数学者・天文学者。

■ ■ 第四問

問一 傍線部 a～e のカタカナを漢字に改めよ。

a	b	c	d	e
---	---	---	---	---

問二 次の一文を入れる箇所として最も適当なものを、本文中の①～⑤の中から一つ選び、記号で答えよ。

「客観化の原理」は、見る者の主観をすべて排除する。

問三 傍線部1「科学的方法」とあるが、それは具体的にいうとどのような方法か。本文中の表現を用いて四十字以内で答えよ。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問四 傍線部2「占星術師の予言」とあるが、「占星術師」に関する説明として、最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- イ 科学が未発達だった時代に、唯一、天体の詳細な動きを正確に見ることができた人間。
- ロ 特別な才能をもっており、ある程度の装置を駆使しながら星を観測していた人間。

問五 傍線部3「宇宙の世界に聖域を見出すことができなくなってしまった」とあるが、ここでの「聖域」とはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- イ 科学的な知識では説明できず、人々が主観的に感じとるしかない領域。
- ロ 人間の合理的な仮説によって作られた、宇宙の調和を象徴する領域。
- ハ 神の存在と結びついて、人間世界に秩序をもたらす源となる領域。
- ニ 苦悩から解放されたいと願う人間が、神の恩寵のもと安息できる領域。
- ホ かつての人間であれば、誰でもたどりつくことのできた穢れなき領域。

問六 本文の主旨に合致しないものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- イ ニュートンは、自然界の法則はすべて必要最小限の原因によって説明できると考えた。

第四問

- ロ 科学は、人間が主体と客体を切り離して考える方法を確立したことによって進歩した。
- × ハ 科学の進歩への反動によって、今日、人間の感覚を重視する風潮が強まっている。
- ニ ダンテにとっての宇宙とは、科学的に捉えられることのない宗教的な世界だった。
- ホ ガリレオに感動をもたらした望遠鏡の観測は、他方で、人間の感覚の排除を促した。

テキストからの解放

第五問 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

- ① 「オオカミは、フツと吹いてブツと吹き、ブツと吹いてフツと吹き、フツと吹いてブツと吹きました。『声の文化と文字の文化』を書いたW・オングは、『三匹の子豚』を読んで聞かせるとき、娘にせがまれてこんなふうに読むことにしていた。★テキストに書かれていたのは、「フツと吹いてブツと吹き、フツと吹いてブツと吹き、フツと吹いてブツと吹き」だったのだが。

- ② 二〇世紀のドイツ語で、おそらくいちばん厳しい詩を書いたパウル・ツェランですら、自作朗読ではテキストから逸脱することがある。「死はドイツ出身のマイスター」を響かせる有名な詩(死のフーガ)の場合、テキストで singet und spielt (歌って弾け)となっている箇所を、spielt weiter zum Tanz auf (ダンスの バンノウをつづける)と朗読している。私たちは普通、ツェランのような現代詩を「読む」とき、疑問符とピリオドのちがいひとつ見落とさないように、目を皿のようにして文字テキストを追いかける。△が、ツェランの詩の朗読を聞くと、疑問符とピリオドのちがいはイントネーションだけでは区別できないことが多い。

- ③ ほかの作家の自作朗読でも、テキストと朗読には、たいがい小さなイドウがある。たんなるミスなのか、意図的な変更なのか。それはわからないが、「オリジナル」とは、その程度の曖昧さを許容するものなのかもしれない。さつき私はテ

〔出典〕
おかざわしずや
丘沢静也
『マンネリズムのすすめ』

〔著者出題歴〕
・ 福井大学
・ 神戸大学
・ 成蹊大学